



教育支援チーム「まつ」

「まつ」通信 No.4

陸前高田の夏ー七夕に思うー

2012年8月22日発行

陸前高田の夏の風物詩と言えば「七夕」でしょう。陸前高田市には、気仙町に伝わる「けんか七夕」と高田町に伝わる「動く七夕」があります。昨年も震災犠牲者への鎮魂の意味を込め瓦礫の中で行われておりました。震災からわずか5ヶ月のことではあったのですが、



それは復旧・復興への祈りとも言えたと思います。そういう想いの祭りであることは十分わかっている、「七夕に出かけよう」という気持ちには、なかなかならないというのが去年の心境だったように思います。

しかし、今年は小友中学校での夏休みの学習支援に、東京理科大学を中心とする学生さんが見えたということ、それがたまたま8月7日～8日という七夕にかかわったので、2年ぶりの七夕に出向きました。そして、「学生さんに楽しんでもらいたい」という想いから、今までにしたこともない「けんか七夕」と「動く七夕」のはしごもしました。

そんな案内をしていると、震災後は会っていなかった教え子や教え子の親、そして、近所の人にも会い、たくさん声をかけられ、「元気だったんだ、良かった」と思うことも度々ありました。それでも、見渡せば周りは瓦礫こそないものの更地のままで、今後どんな風になっていくのか見通しも定かではないのが現状です。声をかけてくれる方は元気な方で、そうでない人達はこの場所に出かける気にはなっていないことも容易に察せられます。それでも、ふと横を見れば、学生さんの姿があり、この方たちもきっと震災がなければここに来ることもなかったであろう人達であり、そんな若い人達がここで見たこと感じたことを未来のどこかで生かしてくれたらと思ったりもしました。被災した陸前高田の地で思うことはいつも表と裏があり、「良かった」「いや、そうじゃない」、「苦しい／悲しい」「そうばかり言ってもらえない」、そんな複雑な思いの中で「生きる」ことを積み重ねていることを感じた七夕でした。

+++++

【7月～8月の「まつ」の活動】

- (1) 支援物資の中で、学校内に使われずに残っているものを回収し、再利用しやすい形で保管する支援を行っています。各学校からの支援物資不要品の回収が終わり、9月に整理・提供リストの作成を行い、9月末には再提供できるような段取りで進行中です。
- (2) 広田中学校の特別支援学級に必要品を提供しました。
- (3) 小友中学校では震災後の学習環境の変化に対応して、夏期休業中に学校で学習を行えるようにしています。この期間中に、大学生による学習支援の要請があり、8月7・8日の2日間の支援のコーディネートを行いました。

+++++

■学校訪問雑感■教育支援チーム「まつ」副代表 菅野祥一郎

あの震災から1年以上が過ぎた。そして今、陸前高田の子どもたちは元気に生活している。学校という場所は、かなり心の支えになっている。学校にいるときは悲しみも忘れていくかのようだ。しかし、あの狭い仮設住宅に帰ったときはどうだろう。泣きたくなくなった、悲しくなったりしているかもしれない。でも泣けない。それは悲しいのは自分だけで

はないのだという思いがあるからだ。そんな思いも伝わってくる。子どもに限らず、東北人は怒りや悲しみを見えないところへ流して、やり過ぎて来た。そう思うことがある。

今年は運動会も出来た。もちろん本来の校庭ではない。本来なら運動会とは自分の学校で行われるのが当然なのだが、それはかなわない。自分たちの校庭は荒れ果てたまま放置されているか、仮設住宅に埋もれている。そのため近隣の空き地か被災を免れた学校を借りての運動会だ。しかし運動会が空き地での開催でも、こんな状況になっても運動会は出来る。こうしてみんなで力を合わせて、競い合い、応援し合い、充実した時間を持てることがきっと希望となって、子供たちの心に残っていくだろう。不憫さがこみ上げてくるが、その分が逞しく育つことは間違いない。そう確信している。

そしてやはり心が立ち上がらなければ…。心が立ち上がらない限り、見た目の復興は何の意味も無い。そう思いながら学校をめぐるている。

■小友中学校の学習支援に参加して■東京理科大学4年 大林沙紀

昨年夏、平泉に旅行で訪れた以来の2回目の岩手県、関東よりも涼しく、過ごしやすい気候の素敵な土地でした。今回は支援の他に陸前高田市のお祭りを案内して頂いたのですが、震災後、お祭りを開催することにも新しく物を作らなければならない困難のある中、地元の方々の活気が伝わってくる、威勢が良いお祭りでした。地方のお祭りの雰囲気はとても素敵で、独特の良さがあるのですが、傍にがれきに草が生えた丘のようなものが見える横でのお祭り、関東の盛大な花火大会へ注がれている労力や資金をどうにか出来ないのかと心を過りました。関東にいる時、何も考えず「花火大会に行きたいな」なんて思っていた私自身もいかに同じ日本である被災地のことを意識せず、置き去りにしている一人であると思ひ、とても恥ずかしくなりました。

小友中学校へ向かう道は自然がいっぱいでした。それは元からの自然ではなく、建物が流された跡地に草が生えているからの自然でした。津波が来てからの1年半の時間の長さを感じました。

学習会がはじまり、私が多く関わった中学3年生の子供たちは人懐っこく笑顔いっぱいでした。教室の前には津波で亡くなった6名の男の子たちの写真が飾ってあり、私でさえ、この状況を上手く整理出来ず、心がむずむずするのにも、15歳の子たちは本当にきつく、悩ましい現実を抱えているのだと思いました。明るさの裏にあるもの、様々な思いが交錯しているのではないかと思います。

一緒に勉強をした女の子はお姉さんが亡くなられており、様々な厳しい状況の中、これからの彼女が進む道を話してくれました。現実を乗り越え、将来を見据える、いや、進まなくてはならない、そんな中で葛藤している様子でした。2日目、勉強会が終わりに近づいた時、その子に「今日で来るの終わりなんだ」と言うと「えっ！そうなの・・・また会えるかなー？」といい、私たちは住所交換をすることになりました。次に会う時まで、はがきの繋がりとなりますが、私自身もこれで終わりの関係にしたいと強く思いました。また会えることを楽しみに、みんなが、強く幸せに過ごしてほしいと願います。

寄付を募っています。ご協力をお願いします。

銀行名：東北労働金庫 支店名：高田支店 口座番号：普通 5903255

口座名義：教育支援チーム「まつ」 代表 鈴木正彦

(キョウイクシエンチームマツ ダイヒョウ スズキマサヒコ)

教育支援チーム「まつ」

〒029-2208 岩手県陸前高田市広田町字大久保 124-1 旧広田水産高校仮設住宅 19-6

Tel/Fax:0192-56-3325 e-mail: teammatsu01@gmail.com



この事業は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成を受け実施しています。